

## 平成 25 年度に事後評価を行った評価結果（概要）について

1. 計画の指標の達成状況は次のとおりとなっている。

評価対象計画数	計画に掲げる指標をすべて達成した計画数	指標の達成が100%未満のものがあった計画数
2	0	2

2. 計画に掲げる指標をすべて達成した地区の、本計画に取り組んだ効果として、次のような実績があった。

(1) 農村の振興

・該当なし。

(2) グリーン・ツーリズム都市農業の振興

・該当なし。

(3) 農業生産基盤の整備

・該当なし。

(4) 中山間地域等の振興

・該当なし。

3. 指標の達成が100%未満のものは次のとおりであった。

評価対象計画数	指標の達成が100%未満のものがあった計画数	うち指標の達成が70%未満のものがあった計画数	うち指標の達成が50%未満のものがあった計画数
2	2	2	0

4. 指標の達成が未達成となった主な要因としては、次のような事例があった。

(1) 農村の振興

- ・該当なし。

(2) グリーン・ツーリズム都市農業の振興

- ・都市との交流による農村の活性化を目指しているが、景気減速が引き続いていること、「神話博しまね」による波及効果は乏しく観光客の流入は非常に限られたものであったため、宿泊者数が伸び悩んでいる。

このため、経費削減に努めながら、近隣施設とのセット企画を提供するなど削減された経費による新たな営業戦略を行っていく。

又、施設利用の考え方を抜本的に見直すことで、低迷している宿泊者数の増加に向けて努力し、地域で連携して展開しようとしている田舎体験事業による、新たな集客及び客単価の増を図っていく。

(3) 農業生産基盤の整備

- ・該当なし。

(4) 中山間地域等の振興

- ・新技術の導入による地域資源を活かした農山漁村の振興を目指しているが、当該技術の優位性のピーアールに時間を要したことや、材料やその部位・形状等に応じた適切な技術的対応の習得に時間を要した。さらには、自然環境の変化による不漁による安定的な原材料確保が難しかった。こうしたことなどが複合的に重なり、目標の達成が困難となった。このため、関係する漁協との原材料確保のための新技術導入等に取り組んでいる。また、二次加工品の開発や外食チェーン等との取引の強化、国内だけではなく海外への新規顧客開拓も図ることとしている。さらに、これらを推進するため、UIJ ターンを含めた人材育成に努める。

5. 指標の達成が未達成となった計画については、今年度指標が未達成となった要因等を分析するとともに、「改善計画」を作成し、農政局の指導のもと、県・市町村が連携し、指標達成に向け取り組んでいる。